

第1学年 算数科学習指導案

児童 2組 男19名 女15名 計34名

指導者 T1 阿部 智子

T2 柏葉 美智子

1 単元名 「たしざん」(東京書籍1年)

2 単元について

(1) 目標

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

(2) 指導にあたって

これまでに、10を分解的にとらえたり、合成的にとらえたりする学習をしている。また、繰り上がりのない1位数どうしの加法や数の構成を和や差でとらえ $10 + (-)$ いくつ、 10 いくつ $+ (-)$ 1位数の計算ができるようになってきている。さらに、第1項と第2項をたすと10になる3つの数の加法計算を学習しており、本単元の学習を進めていくときに役に立つと考える。

本単元では、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方について学習していく。繰り上がりのある計算に取り組むのは本単元が初めてで、次学年以降で学習する加法の筆算の基礎となる大変重要な内容である。数の構成、数に対する感覚、計算力を関連づけながら、問題の解決に取り組み、習熟を図ることで数と計算の理解を相互に深めることをねらいとしている。

児童は、計算についてはブロック操作等によって答えを出すことが全員できるが、念頭で答えを出す場合、速さ、正確さに個人差が大きい。また、たし算はできるが、10までの数の合成・分解の定着や10といくつの意味理解が不十分で、数の概念をしっかりとらえられていない児童もいる。そこで、この単元を通して、確かな見方を育てていきたい。さらに、1学期は簡単な計算は意欲的に発表するものの、自分の考えをみんなに伝えるとなると自信をもてない児童が多かったが、語彙の習得とともに、徐々に伝えることができる児童が増えてきた。

繰り上がりのある加法の学習は、この時期の児童にとって抵抗のある内容である。既習の学習が基になり、新しい内容の計算が進められるので、つまずきをつくらないためには、これまでの学習内容が十分に定着されていなければならない。ここでは、加数分解と被加数分解を重点的に指導していく。どちらでやるかは、各自の判断に任せたい。そのためには、論理的な思考が必要となってくるので、日頃から計算過程や答えを導き出すために操作活動や図、言葉を使って深く考えさせる場を多く設定していきたい。さらに、T1,T2の役割を明確に分担し、1時間の中で児童に達成感をもたせるように、素早い支援を心がけていきたい。

(3) 指導計画(12時間)

第1次 9+4のけいさん (6時間) 2/6本時

第2次 3+9のけいさん (2時間)

第3次 かあどれんしゅう (4時間)

(4) 評価規準

- 既習の加減計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。(関・意・態)
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。(考え方)
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方が確実にできる。(技能)
- 10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解する。(知・理)

3 本時の指導

(1) 目標

- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法(加数分解)を理解する。

(2) 研究の視点に関わっての工夫

◎視点1ー算数ブロック操作を基に、図と計算方法と結び付けて考えさせることにより、自分の考えを明確に持たせたい。

◎視点2ー自分の考えを話したり、友達のを聞いたりしながら学び合い、加数分解の理解につなげたい。

(3) 展 開

	学習内容と活動	活動への支援 (・) 評価 (◆)・仮説 (◎)
つかむ	<p>1 前時を想起する。</p> <p>○きのうの学習では、どんな式をたてましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$9+4$です。 <p>○今までに学習したたし算とどこが違うでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えが10より大きくなりそうです。 ・10のまとまりができます。 <p>2 課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> $9+4$のけいさんのしかたをかんがえよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・T1 が10個のブロックの操作することにより想起させ、答えが10を超えるという見通しをより意識させる。
2		
自分の考えを持つ	<p>3 見通しを持つ</p> <p>○どうやったら答えを出すことができますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数ブロックでやればいい。 ・図をかけばいい。 <p>4 自力解決する</p> <p>○算数ブロックで答えを出したら、ブロックをどう動かしたかわかるように図にかいてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数ブロック <p>□□□□□□□□ □□□□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図 <p>○○○○○○○○○○ ○○○○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習をもとに考えさせる。 <p>◎ブロック操作を基に、図にかいて話すことにより、自分の考えを明確にもたせる。(視点1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸惑っている児童にはヒントカードを渡す。 ◆既習の加減計算や数の構成を基に、$9+4$の計算の仕方を考えようとしている。(ブロック、ノート) ・操作や図を基に児童自身の言葉で表現させる。 ・T2 は戸惑う児童につき、図にかけるように支援したり、話ができるように声掛けしたりする。
10	<p>○ブロックや図で説明しましょう。</p>	
学び合う	<p>5 みんなで学び合う</p> <p>○自分でやったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○○○○○○○○○ ○○○○ <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○○○○○○○○○○○ ○○○○ <p>10 と 3 で13</p> <p>○$9+4$ はどちらのやりかたですか。</p> <p>10</p> <p>1 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9と1で10のまとまりをつくっている ・4から1をやって10にする。残りの3と合わせて答えを出している。 ・4を分けている。 <p>○なぜ1と3にわけたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9と1で10なので、4から1をやるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が説明するときはノートを投影機に映し出す。 ・それぞれの児童の発言を拾い、まとめながら板書していき、加数分解の理解につなげる。 ◎発表したり、発表を聞いたりしながら学び合うことによって、数えたしよりも10のまとまりをつくり、「10といくつ」として答えを求める加数分解の方法のよさに気づかせる。(視点2) ・図と式を対応させることにより、加数の4を1と3に分解し、9と1で10をつくることを理解をさせていく。 ◆$9+4$の計算の仕方を考え、操作や図、言葉などを用いて説明することができる。(発表、表情)
20		
まとめる	<p>6 まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> $9+4$のけいさんは、10のまとまりをつくって、10といくつでこたえをだす。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た言葉を使ってまとめる。
つかう	<p>7 適用問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$9+3$ <p>8 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・$9+3$をブロック操作に合わせて、計算の仕方を言いながら答えを出させる。金メダル問題$9+5$。 ・T1,T2 で丸つけをする。 ・振り返りをする。

